ビビッとしっくに

chic vivid

踊り練習中の鈴川さん

りの中に歩行者天国を設けることを見合わせてきました。しかし、今年のとうかさん※では、3年ぶりに歩行者天国が復活。そこで行われた「ゆかたできん祭」のメインイベント「ゆかたで踊りんさい」に、「チームコーチズ」として参加しました。とうかさんが最もにぎわった6月7日の人出は17万人。練習の時には「踊りたくない」と言っていたのが、祭りならではの雰囲気にひかれて「やっぱり踊らせて！」と参加した子もいたそうです。

スタッフは、この日を目指して1カ月前から練習を行ってきました。週4日程度の練習日を設け、仕事を抱えているスタッフのために早朝7時からの練習もこなしました。激しい動きをするために、体のあちこちが筋肉痛になります。それでも誰一人やめなかったのは、この踊りにのめり込む不思議な魅力があるからのようです。

コーチズから青少年たちへ

初めは自主性に乏しかった青少年たちが、体験を通して変わっていく様子に、コーチズ本部長の土居義英さんは、やりがいを感じます。「コーチズの半年間は、何もしない半年間とはすごく違うはず。普通に過ごしていれば、できないような社会経験ができる。それを将来に生かして欲しい」。

やる気も、打ち込むものもないと言われがちの今の若者たちが、活動の提案から実行までコーチズの中で経験していくことは、自主性を持つよいきっかけになっているようです。今年から始めた南中ソーランは、そのきっかけづくりの大きな一歩です。コーチズが踊る南中ソーランを見て、「かっこいい」と思ってくれればしめたもの。スタッフはすぐにでも踊りの指導者を派遣します。コーチズは、広島を盛り上げ、広島を活気づけるのに欠かせない存在となっているようです。

※**とうかさん**
稲荷山円隆寺境内（中区三川町）を中心に、毎年6月の第1金曜から三日間（今年は6・7・8日）行われるお祭り。広島では、このお祭りの日からゆかたを着始める習慣がある。

とうかさんでのコーチズの衣装。熱気が伝わってきます

衣装もおそろいで
団結力バツグン！

コーチズは、学校や介護福祉施設などで活躍中。
健康教室や南中ソーランの指導に、いつでもお伺いします。
ご連絡お待ちしています。

INFORMATION
特定非営利活動法人コーチズ（代表 児玉 宏）
中区八丁堀3-1　幟会館2階
TEL・FAX 082-511-7617
URL http://homepage.broba.ws/coaches-/
E-mail npo-coaches@gamet.broba.cc

活動が終わったら、その日のうちに反省会。今後の活動の企画案も飛び出します

大学生と子どもたちの間に虹をかける
レインボーキッズ

大学のボランティアサークルが発展

学校週5日制が実施され、地域住民と子どもたちのつながりが重要視されるようになってきました。そこで"家族の大切さ、人のために何かをする楽しさを知ってほしい"と、広島市やその周辺の大学に通う学生たちが集まり、昨年12月、Educational ボランティアサークル「レインボーキッズ」が生まれました。サークルの名前は、虹のようにさまざまな個性を持った学生が、子どもたちと交流することをイメージしています。現在、広島経済大学、広島女学院大学、安田女子大学、広島市立大学、呉大学、広島文教女子大学、比治山大学、広島大学の、県内8大学、約80人の登録メンバーに拡大しています。

創立メンバーは広島工業大学の学生たった2人でしたが、ほかの大学にもこの活動を広げていきたいという彼らの思いが受け止められ、次第に参加大学や人数が増え、大学生同士のネットワークが活性化していきました。

大学生と相談しながら、肩たたき券を作ります

何事も体当たり

6月7日、女学院大学のメンバーは東区の早稲田公民館に集まり、子どもたちと、緒に、父の日のプレゼント「肩たたき券」を作りました。

このイベントを開催するため、メンバーは最初に小学校を訪れました。校長先生に直接趣旨を説明し、協力してもらおうと思ったのです。しかし、これはうまくいきませんでした。そこで彼女たちは、次に地域の公民館を訪れました。きちんとした企画書を作成し、趣旨を説明したところ、早稲田公民館が協力してくれることになったのです。チラシを置いてもらい、公民館だよりにも掲載してもらいました。断られてもあきらめず、数多くの場所と交渉することが大切なのだそうです。

このサークルでは、ボランティアをする側としての活動目標も定めています。毎回「今日の目標」を決め、自分が苦手なことにチャレンジするのです。具体的な目標を掲げ、終了後には反省会を実施。自分の行動を振り返り、良かったこと、悪かったこと、今後の活動に対する提案などを話し合い、よりよい活動に向けての材料にしています。

自分に何ができるかを考える

ボランティアで大切なのは「自的意識を持つこと」「受身にならないこと」、そして「自分に何ができるかを考えること」と、レインボーキッズ3代目代表の山崎さんは言います。現在は老人ホームとタイアップして、子どもたちとお年寄りが交流できるような企画を計画中。ほかの大学や一般のボランティアサークルとも、一緒に活動したいそうです。メンバー同士の連携を図りながら、レインボーキッズは今後も活動の輪を広げていくことでしょう。

INFORMATION
Educational ボランティアサークル
レインボーキッズ（代表 山崎 唯美）
中区袋町6-36 まちづくり市民交流プラザ
フリースペース気付メールボックス番号46
FAX 082-545-3838
E-mail r-kids2002@yahoo.co.jp

肩たたき券の説明をする、代表の山崎さん